

研究者
紹介

私の研究

理工学研究部 科学技術史グループ

ありがのぶみち
有賀 暢迪 研究員

国立科学博物館

『過去の科学者の活動を資料から読み解く』

科学はいつ、どのようにして、現在のよう形になったのか？—これを考えるのが科学史という学問です。私はその中でもとくに、歴史上の科学者の活動に関心を持っています。

そうした活動を知るための重要な手掛かりとなるのが、科学者の遺した資料です。たとえば国立科学博物館には、戦前期の日本を代表する物理学者・長岡半太郎や、日本初の植物学教授・矢田部良吉といった人たちの資料が寄贈されて保存され

ています。これらの中にはノートや原稿、日記や手紙といった種類の資料が含まれており、近現代の日本における科学の歴史について多くのことを知ることができます。

私は現在、これらの資料を詳しく調べるとともに、カタログ化やデジタル化を行い、多くの研究者が利用しやすくなるよう作業を進めています。



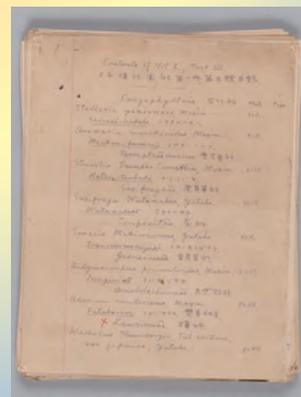
物理学者の^{あやあ}桑木或雄が長岡半太郎に送った葉書（アインシュタインのメッセージ入り）



矢田部良吉の履歴書



帝国大学理科大学（現在の東京大学理学部）物理学科の人々を写した集合写真



矢田部良吉『日本植物図解』の原稿

研究者に
聞いてみました！

1) 専門は何ですか

科学史です。物理学史・数理学史と、近現代日本の科学技術史という二つの分野で調査研究を行っています。

2) これから取り組んでみたい研究は

物理学分野を中心に日本の科学者とその資料の情報をまとめたデータベースを作りたい

と思っています。

3) やりがいを感じるのはどのような時ですか

ほかの人に「面白い」と言ってもらえた時です。

4) 研究者になるために一番大事だと思うことは何ですか

与えられた環境の中で自分でできるベストなことは何かを常に考えること、かもしれません。



photo by yusuke nakajima

理工学研究部